

仙台育英学園報

仙台育英学園報 第18号 Web版

発行 / 令和元年 7月 19日

学校法人 仙台育英学園

〒983-0045 宮城県仙台市宮城野区宮城野2丁目4-1

Tel. 022-256-4141

URL <https://www.sendaiikuei.ed.jp>

Web版



アイ・チャレンジ 125

(2019年版)

復興バージョン9



学校法人 仙台育英学園 理事長

加藤 雄彦

梅雨入りしたとは思えないほど澄み切った青空とコバルトブルーの海とのコントラストを車窓から楽しみながら、東北電力女川原子力発電所へ向かいました。ところが一つしかないゲートを通るにも、停止中の3号機の建屋に入るにも、身元を確認する仕組みがあり、想定されるリスクを排除するための張りつめた雰囲気が伝わってきたのが第一印象でした。

2011年3月11日14時46分頃、三陸沖約130km、深さ約24km、日本国内観測史上最大のマグニチュード9.0を観測した地震（宮城県内最大震度7）の発生から43分後、震源地から約130kmと最も近い場所に位置していた原子力発電所へ約13mの大津波が襲来しました。

東北電力の説明によると、同原発の設置に当たって、敷地の高さの研究は1968年から始まり、貞観津波（869年）・明治三陸津波（1896年）・昭和三陸津波（1933年）等の津波記録と学識経験者による社内委員会の専門的な意見を踏まえて「14.8m」に決定しました。さらに女川2号機設置認可申請時（1987年）には想定津波の高さを3mから「9.1m」に見直し「9.7m」まで敷地の法面を強化し、加えて土木学会手法による津波評価試算値「約13.6m」から同敷地高14.8mの安全性確認を大震災発生の9年前に行っていたのです。

ここで素朴な疑問が湧いてくるはずです。あの大津波（約13m）は女川原子力発電所と東京電力福島第一原子力発電所を同様に襲いました。しかしながら福島第一原発は何故あのような重大事故を起こしたのかという問いです。

アイ・チャレンジ 125

地震発生後、女川原子力発電所は原子炉を『止める、冷やす、閉じ込める』の三大原則を正常に行いました。それは発電所を安全に停止するための三つの以下の要因が機能したからです。①敷地の高さ（14.8m）②港側の海水ポンプおよびモーター類の無設置③2010年までに実施した6600箇所の耐震工事。

一方、福島第一原発でも『止める、冷やす、閉じ込める』は地震後も維持したものの、地震によって①地震による外部電源喪失が起き、その後の津波によって②浸水による所内電源喪失（非常用発電機・蓄電池・配電盤）、③海水ポンプ室の海水侵入による冷却機能喪失、④炉心損傷、⑤水素発生、⑥水素漏洩、⑦水素爆発まで至り、国内外に深刻なダメージを与えました。

もちろん地震と津波によって女川原子力発電所も被害は免れませんでした。しかし重大事態まで至らなかったのは幾多の津波被害を経験し、そのことを軽視しなかった歴代経営トップの姿勢ではないかと考えています。

なかでも女川原子力発電所の安全対策の極みと感じたのが、防潮堤のかさ上げ工事だと思います。2013年5月の工事を開始した総延長約800m、海拔29mの「鋼管式鉛直壁」および「セメント改良土堤防」はあと2年の歳月を要して完成するそうですが、その壮観な姿はまるで「令和の万里の長城」を彷彿させるだけの迫力があります。

さて、本学園宮城野校舎の安全対策のうち、関係省庁との協議が整った「北側擁壁工事」がようやく始まります。1965年3月10日の大火によりほとんどの校舎を焼失しましたが、その後の復興工事によりなだらかな法面であった北側斜面はコンクリートによる擁壁に変貌しました。幸いにも大震災での崩壊は発生しませんでした。危険性を抱えていると考え、新校舎の位置を擁壁から離れた上で大規模改修ができる条件を整備して参りました。

そこで北側擁壁工事にあわせて、西側隣接の旧東北建設局用地を活用したILC宮城関係施設、美術・技術室、部室、運動場、緊急避難路、駐車場の整備を始めます。同整備事業の完成まで生徒、職員はじめ宮城野校舎に訪れる皆様にはご不自由をおかけすることとなりますが、大震災からの復興と安全対策に取り組む学園方針にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに女川原子力発電所の関係者との質疑応答のなかで心に残る言葉がありました。これを紹介させていただきながら東日本大震災復興工事へのご支援を継続してお願い申し上げます。

「国には法律や様々な基準がございまして、これらに従って物事を進めることが求められています。当たり前のように、その通りになさらない事例もたびたび見受けます。私どもは法律を守りながら、求められる基準を上回るものを常に求める姿勢を崩しません。最新の知見と共にこれからも歩んでいきます。」

2019 仙台育英学園 トピックス【1-6 月】

January, 2019

外国語コース生徒と中国からの留学生が新年会を楽しみました



中国のお正月“春節”が目前に迫った 1 月 31 日、仙台育英孔子課堂新年会が開催されました。参加したのは、第二外国語で中国語を学ぶ生徒をはじめとした外国語コース 1・2 年生と留学生。日中の伝統的なお正月遊びを楽しみながら交流を深めました。

February, 2019

本校書道部、“書の甲子園”で、念願の全国優勝を手に！



“書の甲子園”（第 27 回国際高校生選抜書展）で、本校書道部がついに団体の部全国優勝を果たしました。2 月 3 日、部員 24 人が毎日新聞オーバルホール（大阪市北区）で行われた表彰式に出席。表彰式後の席上揮毫、書道パフォーマンスなどを披露しました。

February, 2019

ILC 宮城・青森・沖縄の生徒が「山形蔵王・被災地研修旅行」



宮城県、青森県、沖縄県の各 ILC で学ぶ生徒たちが一堂に集まり東北研修旅行が行われました。蔵王でスキーやスノーボードを楽しんだり、『せんだい 3.11 メモリアル交流館』『震災遺構 荒浜小学校』を訪れ震災について学ぶなど、充実した研修となりました。

March, 2019

IB クラス第 3 期生から 5 人が、世界共通の難関試験を突破！



本校が東北で初の国際バカロレア【IBDP】の認定校となってから、2019 年 2 月で 4 年目。昨年度も外国語コース IB クラス 2 年間のプログラムを終えた 5 人の第 3 期生が、IB バカロレア資格を取得！卒業後は、中央大学や海外の大学にそれぞれ進学しています。

March, 2019

『第 15 回関数グラフアート全国コンテスト』で優秀賞受賞！



『第 15 回関数グラフアート全国コンテスト』で、秀光コース 1 年（受賞当時）佐藤さんの作品が優秀賞に選出されました。受賞作品は、秀光コース 1 年の数学 MYP「図形と方程式」の授業で作成した、関数グラフを使ったアート作品「Merry Christmas」です。

2019 仙台育英学園 トピックス【1 - 6 月】

April, 2019

e スポーツ部、2019 年春から本格始動！



新たな部として e スポーツ部が、2019 年度から本格的にスタート！ e スポーツ部の設置に先立ち、情報科学コースの生徒が所属するパソコン部では 2018 年 12 月開催の「第 1 回全国高校 e スポーツ選手権」にも挑戦！ ベスト 8 まで進出しました。

April, 2019

多賀城校舎 北辰館食堂で、今年も「タイフェア」を開催！



本学園の寮生が毎日の食事をしている多賀城校舎北辰館食堂で「タイフェア」を開催。タイ王国認定タイ・セレクトの人気レストランのシェフ、タアちゃん監修の本格的なタイ料理が食堂に並びました。本校で学ぶタイの留学生たちも盛り付けを手伝ってくれました。

April, 2019

「MOS 世界学生大会 2019」で情報科学の生徒 2 名が快挙！



▲情報科学コースの授業風景

「MOS 世界学生大会 2019」で新田さんと坂田さん【ともに 2019 年 3 月卒業】が快挙！坂田くんは「PowerPoint2016」で入賞！新田さんは「Word 2016」「PowerPoint2016」で国内 1 位、入賞は今回でなんと 3 度目！輝かしい栄光を手に入れました。

May, 2019

秀光オーケストラ 山形交響楽団とのジョイントコンサート



5 月 18 日、本校宮城野校舎ゼルコバホールで、「STAND 山形交響楽団とのジョイントコンサート」が開催されました。今年は、現在プロ奏者として活躍する仙台育英学園卒業生青木大河さんが『トロンボーン協奏曲』で華麗な演奏を披露してくださいました。

June, 2019

宮城野校舎、多賀城校舎で「在卒懇」を開催！



この春大学に進学した先輩たちに大学受験の体験談や大学での学校生活などを聞くことができる在卒懇（在校生と卒業生による懇談会）が、今年も各コースで行われました。大学受験を目前に控えた 3 年生は積極的に質問。貴重な情報に熱心に耳を傾けていました。

学校法人 仙台育英学園の現状

1 令和元年度 在籍生徒数 (2019.5.1 現在)

(1) 仙台育英学園高等学校

全 日 制	1 学 年	2 学 年	3 学 年	合 計
特別進学	341	260	208	809
外国語	66	98	87	251
英進進学	263	328	218	809
情報科学	79	96	88	263
フレックス	197	181	178	556
技能開発	178	134	123	435
秀光コース	22	27	-	49
合 計	1,146	1,124	902	3,172

通 信 制	31 年度生	30 年度生	29 年度生	28 年度以前生	合 計
宮城・青森・沖縄	149	195	161	124	629

*平成 31 年度は前期生のみ

(2) 秀光中等教育学校

	1 学 年	2 学 年	3 学 年		6 学 年	合 計
前期課程	37	35	32	後期課程	33	137

学校法人 仙台育英学園の現状

2 平成 30 年度 決算状況

平成 30 年度の決算も無事終了しました。収支概要は下記の表のとおりです。8 年前の東日本大震災の爪痕はまだまだ引き続いており、校舎建替えに伴う支出の負担を一挙に軽減できるものではありませんが、今年度は復興事業計画の未整備で懸案事項でもありました宮城野校舎北側擁壁の一部改修整備を行うことができました。

さて、本学園が半世紀前から継続して実践してきた国際理解教育は、今や国外研修、留学生の受け入れ、海外姉妹校への生徒の派遣・受入事業等と益々活発になってきています。令和元年 5 月 1 日現在留学生は 12 か国から 163 名、外国人講師は 9 か国から 23 名を受け入れています。今後これらの事業のさらなる充実と発展を目指しています。

また高度情報化時代に先駆けた取り組みも継続的に行う中で、現在は最先端の設備を導入し（surfacePro4 等）、時代の変化に対応できる授業が実施され、生徒たちがより一層発展的学習と充実した学園生活を送れる環境が整いつつあり、これらの事業を展開するための多額の経費の支出を継続的に行っているところと

ころです。
これからも財政基盤をさらに強化し、引き続き教職員一丸となって学園運営を推進してまいりますので、皆様方には引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■ 平成 30 年度 事業活動収支状況

【単位：千円】

教育活動収支	収入の部	科 目	決 算 額	摘 要
		学生生徒等納付金	2,080,392	
		手数料	74,486	
		寄付金	37,377	
		経常費補助金	1,032,281	
		国庫補助金	12,005	
		地方公共団体補助金	1,020,276	
		付随事業収入	174,164	
		雑収入	100,070	
		教育活動収入計	3,498,770	
	支出の部	科 目	決 算 額	摘 要
		人件費	1,722,599	
		教育研究経費	1,605,189	減価償却額 538,589 含む
		管理経費	362,500	減価償却額 13,289 含む
		徴収不能額	1,166	
		教育活動支出計	3,691,454	
	教育活動収支差額		△ 192,684	
	教育活動外収支差額		△ 39,902	
	特 別 収 支 差 額		44,270	
	基本金組入前当年度収支差額		△ 188,315	
	基 本 金 組 入 額		△ 338,265	
	当 年 度 収 支 差 額		△ 526,580	

学校法人 仙台育英学園の現状

■ 平成 30 年度 貸借対照表

【単位：千円】

資 産 の 部	
科 目	金 額
固定資産	20,182,622
流動資産	893,224
資産の部 合計	21,075,846
負 債 の 部	
科 目	金 額
固定負債	4,519,865
流動負債	1,024,062
負債の部 合計	5,543,927
純 資 産 の 部	
科 目	金 額
基本金	26,626,460
繰越収支差額	△ 11,094,541
純資産の部計	15,531,919
負債及び 純資産の部合計	21,075,846

SG グループとの教育事業連携について

フレックス・技能開発コース教頭 多賀 努



加藤雄彦理事長・校長先生から「SGグループ」という、八戸市を拠点とする東北医療福祉事業協同組合について教えていただいたのが昨年の11月でした。高校や大学のスポーツイベントに、グループ内の事業所から専門的技術をもつ人材を派遣して安全教育や健康教育をサポートする「スポーツ応援プロジェクト」を実践し、これによって地域貢献と医療福祉事業への啓発活動を進めながら、派遣職員のやりがいや生きがいを創出しようとしているというご紹介でした。

少子化の影響が深刻化する日本社会にとって海外からの留学生を受け入れて医療福祉系の人材育成を進める可能性が、このSGグループと連携することで大きく広がるのではないかと理事長・校長先生はお考えでした。そのビジョンの卓越性とスケールの大きさに圧倒されながら、フレックス・技能開発コースにとっても、新設する学校設定科目の質を高めるために、SGグループの方々から力を貸しただけのではないかと考え、加藤聖一常務理事にご相談しました。

入学してくる生徒にとって魅力あるカリキュラムを編成する。このことが大切なのは言うまでもありません。欧米へのキャッチアップが完了したと言われ始めた1980年代から、学習指導要領は徐々に大綱化され、各学校が独自に工夫してカリキュラムをマネジメントする方向に舵が切られています。文部科学省はカリキュラムマネジメントに3つの側面があるとしています。そのひとつは「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること」です。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364319.htm

わが国の子供たちは、モデルのない予測不可能な未来社会を自立的に生きなければなりません。この時代認識が背景にあります。2018年3月30日に改正告示された今回の学習指導要領においても、「社会に開かれた教育課程」が重視され、「子供たちに求められる資質・能力とは何か」を社会と共有し、社会と連携してその実現を図ることが求められています。

SG グループとの教育事業連携について

フレックス・技能開発コースの担当として、私はこのような流れで SG グループとの教育事業連携に関わるようになりました。

具体的な協議は今年の 1 月 10 日に宮城野校舎法人局で行われました。SG グループからは、事業推進部長の村口様、教育研修担当部長の片桐様、事業推進部人事企画担当の八木田様、仙台事務所の採用担当係長の長田様の 4 名が出席されました。仙台育英学園からは、法人局参与の宮下文憲先生を事務局として、尾形国際部長、大友就職支援室長、NPO 法人 Leo Club Japan 山本代表、フレックス・技能開発コースから私と高橋教務部長が出席しました。連携する SG グループを改めて紹介します。同グループは八戸市を拠点として青森・岩手・宮城・福島・新潟で医療・介護分野を中心に 16 法人、約 200 事業所を運営する医療福祉の事業協同組合です。宮城県内にも広瀬病院や川崎こころ病院、みやぎ健診プラザ、介護老人保健施設など、特別養護老人ホームきたかみ等、多くの事業所が含まれています。総職員数約 4,500 人ということですから、とても大きなグループです。

宮下先生の進行で協議を進め、相互平等と誠実な協議を前提に、「教育事業連携協定書」を取り交わすこととなりました。

その概要は次のとおりです。

- 1 本校部活動の出場する大会やイベントに、健康安全指導を促進するために、SG グループの職員を派遣していただく。この窓口には NPO 法人 Leo Club Japan があたる。
- 2 本校は SG グループの教育活動を一部導入し、適正規模で SG グループ設置学校の指定校推薦枠をいただくと同時に、本校卒業生を SG グループの学校や事業所に紹介する。
- 3 本校に在学する海外からの留学生に対して、SG グループ設置学校への進学等を条件に、奨学金制度の活用を進める。

私がこの紙面でご紹介するのは、上記 2 の中の、主に SG グループから講師をお招きして実施する授業についてですが、1 と 3 についても簡単に紹介させていただきます。

まず、1 についてです。

宮城県高校総体は 6 月 1 日から 3 日まで県内各競技場で開催されました。SG グループによる「スポーツ応援プロジェクト」の一環として、今年度は女子バレーボール部（会場：古川総合体育館他）となぎなた部（会場：仙台市宮城野体育館）に理学療法士を派遣していただき、ケガの予防やリハビリテーション等の支援をしていただきました。女子バレーボール部は惜しくもベスト 16 にとどまりましたが、なぎなた部は団体・個人とも優勝という結果でした。



SG グループとの教育事業連携について

3の事業は最もスケールの大きな、将来性のある事業です。

この5月にインドネシアから2名の女子生徒が技能開発コースの3年次に編入学しました。現在は午前中と放課後に日本語の学習に取り組んで、それ以外の時間は技能開発コースで書道や数学、地理、家庭科、体育、学校設定科目の社会福祉基礎等の授業を受けています。クラスメイトとの人間関係も良好で、元気に生活しています。仙台育英学園卒業後は八戸学院短期大学の介護福祉学科への進学するために一生懸命に取り組んでいるところです。



左がアリファ、右がエリカ。インドネシアの本学園姉妹校から編入学し、外国人奨学生として熱心に日本語の勉強をしています。この日は社会福祉基礎の授業の中で長嶺先生に日本語の復習をしていただきました。今年度の後半からは介護福祉基礎も始まり、実習にも出かける予定です。

さて、フレックス・技能開発コースでは、それぞれのコースの特色化を図るために学校設定科目の検討を進めていました。

従来、技能開発コースにはコースの生徒だけが履修できる「自動車整備技術講座」や「トリマー講座」等、生徒の関心や進路希望に沿った学校設定科目が開設されていました。一方で、フレックスコース独自の学校設定科目としては大学進学を前提とした受験関連の科目が中心で、部活動、特に、全国大会レベルの運動部に所属して高いレベルの文武両道を実現するというコースのコンセプトに沿った学校設定科目が足りませんでした。数年前から検討していたスポーツ系の学校設定科目を今年度こそ開設しようと教科主任・学年主任会議で決めて、フレックスコースに「スポーツメディカル講座」（1年2単位）と「スポーツと栄養講座」（2年生2単位）を開設することとしました。ちょうどそこにSGグループとの連携の話が具体化したわけです。

フレックスコースの「スポーツメディカル講座」は運動部の部活動や日常生活の中でケガをした際の対応や応急手当の処置を専門的に学び、豊かなスポーツライフを実現することを目標にしています。具体的には、スポーツ傷害の一般的な予防法、ウォーミングアップ・クーリングダウンの効果や方法、テーピングの効果や方法、メディカルチェックや応急処置の意義その他について、看護師・作業療法士・保健師の方々から直接教えていただく機会を設けています。



スポーツメディカル講座で、作業療法士の大内義隆先生を講師に、ウォーミングアップとクーリングダウンについての理論を学びました。

SG グループとの教育事業連携について

「スポーツと栄養講座」はスポーツを栄養の面から捉え、競技力向上のために必要な知識を学び、実践への意欲を高めるとともに、将来の職業選択にも生かせる授業をめざしています。



▲スポーツと栄養講座で管理栄養士の松井育葉先生から食事の役割について学びました。



▲仙台事務所の長田大樹さんからSGグループの概要等を説明していただきました。長田さんは実は本校卒業生です。

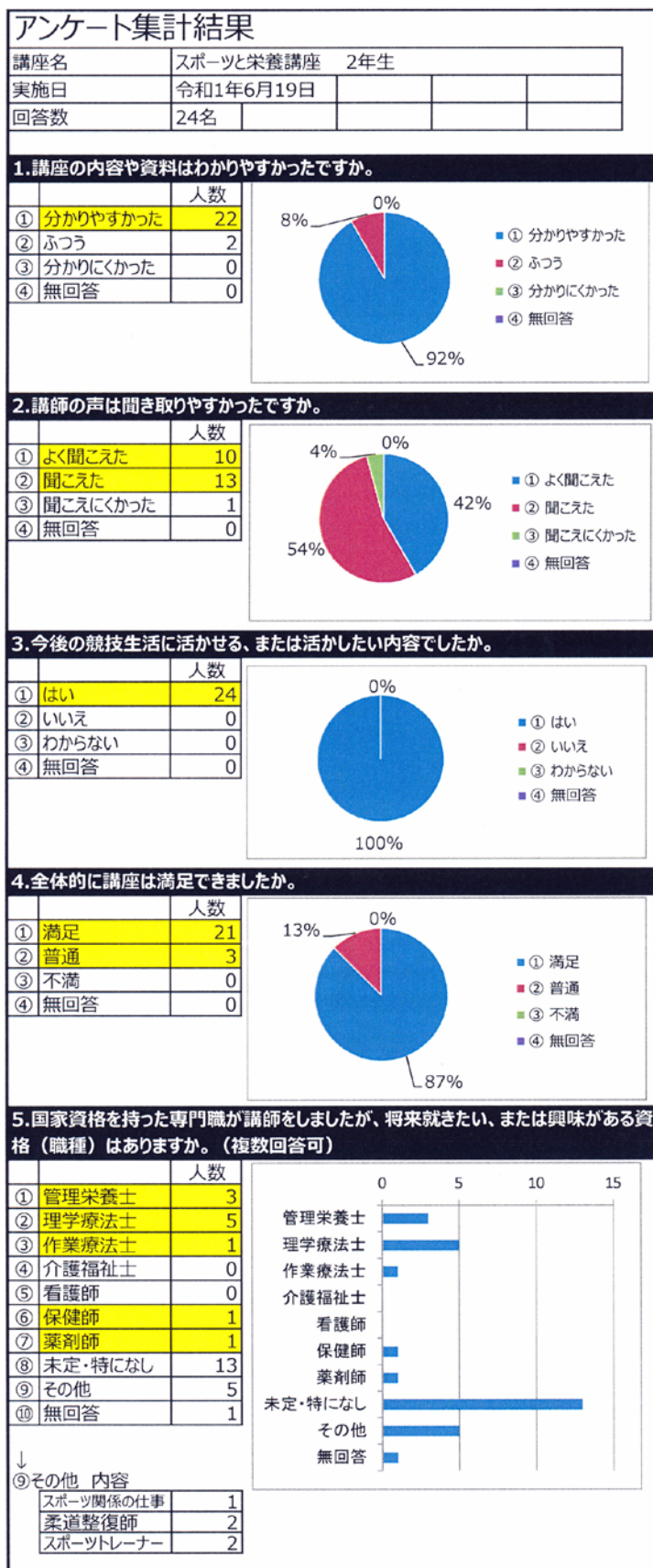
具体的には、アスリートにとっての食事の意義について体験談を聴き、栄養摂取の基本的な考え方や摂取カロリーと消費の関係、サプリメントの有効性や危険性、ドーピング対策、自分の体のデータ測定と分析、トレーニング効果を高めるための食事の摂り方等、多岐にわたる内容について、管理栄養士や薬剤師、理学療法士、保健師、作業療法士の方々から教えていただきます。いずれも運動部に所属する生徒が7割以上で、スポーツに対する関心の高い生徒が多いフレックスコースの特長を生かした授業ですが、SGグループとの教育事業連携協定のおかげで、質の高い授業が実現できていると考えています。

SGグループの皆様、特に、講座の趣旨をご理解いただき、精緻な指導計画を立てて講師選定をしていただき、同時に自らも看護師として教壇に立っていただいた片桐まゆみ様には心から感謝申し上げます。

講座の開講に先立つ今年の3月5日には事業本部の方々と一緒に、講師をお引き受けくださった先生方8名が本校を見学されました。授業の準備をするにあたって、やはり生徒の姿を見ておきたいとのご意向でした。本コースの概要説明と学校設定科目の授業担当者の説明の後、その場の協議の中で、学外の方々が高校生の教育に高い関心をお持ちだということを改めて感じました。専門家としての視点で生徒に「これを教えたい・教えてよいか」という熱心なご意見をうかがうことができました。社会と連携して教育課程を運用する効果のひとつだと自負したところでした。

最後に、松井先生の授業のあとに、仙台事務所の長田様から次のアンケート結果を送っていただきました。初年度の実践でまだまだ改善の余地はありますが、生徒の受け止めとして掲載いたします。

SG グループとの教育事業連携について



令和元年度

宮城県高等学校総合体育大会 成績

《団体種目》 ※ 1 ～ 3 位まで

■ 仙台育英学園高等学校

《優勝》

なぎなた 2 年ぶり 20 回目

女子エアライフル 3 年連続 4 度目

女子ビームライフル 3 年連続 14 回目

男子ビームライフル 6 年ぶり 14 回目

ラグビー 24 年連続 28 回目

陸上競技男子トラック

《準優勝》

剣道男子

陸上競技男子総合

陸上競技女子総合

《3 位》

陸上短距離女子（400mリレー）

サッカー男子

バドミントン女子

卓球男子



令和元年度

仙台市中学校総合体育大会 成績

《団体種目》 ※ 1 ～ 3 位まで

■ 秀光中等教育学校【前期課程】

《優勝》

野球（県大会出場）